

科目名・単位数	民法Ⅱ 2単位	科目分類	法律系	基本科目
配当年次	1年次・秋学期・昼・夜	担当教員	やまもと たけし 山本 武	
履修形態	選択必修			
授業概要	本講義の目的、民法を学ぶことに意義等は、基本的に民法Ⅰと同様である。民法Ⅰに引き続き、民法の債権法の分野に関する判例の事案を素材にして、債権法に関する重要論点を基礎から解説する。			
到達目標	市民社会で生ずる債権法に関連する紛争事例の中から、論点を抽出し、その民法的解決方法を自ら考え、その当否を議論し、論証する能力を修得すること。			
授業方法	講義形式で進める予定だが、学生からの要望があれば、講義内でディスカッションの機会を積極的に設け、あるいはゼミ形式で運営することも検討する。			
事前・事後学習	講義範囲につき、予めテキストを一通り読み、問題意識を持った上で講義に臨んでほしい(60分程度)。復習に際しては、講義で取り上げた範囲について、基礎知識を確認した上で、レジュメに掲載されている演習問題を検討して欲しい(120分程度)。			
成績評価の方法	講義の進度に合わせて出題する課題(全3回)、および期末考査の成績に80%、ディスカッション等への取り組み等、平常点に20%程度の比重を置き成績評価を行なう。なお、課題は1回あたり5時間程度の時間を要すると覚悟して欲しい。			
フィードバックの方法	課題は、採点・添削の上で、模範解答例と共に返却する。			
履修上の注意	履修条件は特にない。初学者もやる気があれば大歓迎である。なお、春学期の「民法Ⅰ」と合わせて、民法の財産法の全範囲をカバーすることになる。			
授 業 計 画				
第1回	民法Ⅰで学んだこと ①権利・義務と法律関係、②民法の意義と基本原理、③法律行為(契約)と法律行為の主体、④意思表示、⑤代理の基本構造、⑥物権変動における公示の原則・公信の原則、⑦担保物権の基本			
第2回	債権総論(1)：債権関係とその内容 ①債権法の構造、②債権の意義(物権との対比)、債権の種類、③種類債権の特定の要件、時期、効果(最判昭30.10.18(百選Ⅱ1))			
第3回	債権総論(2)：債務不履行 ①債権の現実的履行の強制、②債務不履行を理由とする損害賠償(最判昭47.4.20(百選Ⅱ9))、③契約の付随義務(最判昭50.2.25(百選Ⅱ2))			

第4回	債権総論(3)：責任財産の保全 ①責任財産保全制度, ②債権者代位権, ③債権者取消権(最判昭36. 7. 19(百選Ⅱ15), 昭53. 10. 5(百選Ⅱ16))
第5回	債権総論(4)：弁済 ①弁済の提供と受領遅滞, ②表見受領権者への弁済, ③弁済による代位(最判昭59. 5. 29(百選Ⅱ36))
第6回	債権総論(5)：相殺, ①相殺制度の意義, ②相殺と差押(最判昭45. 6. 24(百選Ⅱ39)), ③更改・免除・混同,
第7回	債権総論(6)：債権譲渡, ①指名債権譲渡の意義, 対抗要件としての通知, 承諾, ③指名債権の二重譲渡と優劣の基準(最判昭49. 3. 7(百選Ⅱ29) 最判平5. 3. 30(百選Ⅱ30))
第8回	債権総論(7)：債務引受, ①債務引受, ②契約上の地位の移転(最判昭46. 4. 23(百選Ⅱ41))
第9回	債権総論(8)：多数当事者の債権関係, 第三者による債権侵害 ①連帯債務, 不可分債務, ②保証の意義, 連帯保証, ③特定物売主の保証(最判昭40. 6. 30(百選Ⅱ22)), ④債権侵害の類型化
第10回	契約総則：総則, 契約各論(1)：贈与 ①契約締結上の過失, 同時履行の抗弁権, ②契約解除の要件, ③契約解除の効果, ④解除と第三者(最判昭35. 11. 29(百選Ⅰ56)), ⑤贈与,
第11回	契約各論(2)：売買(1), ①売買の意義, ②売買の目的物③売買の予約, 手付(最判昭40. 11. 24(百選Ⅱ48)), 使用貸借, 賃貸借の意義,
第12回	契約各論(3)：売買(2), 賃貸借(1) ①売主の契約不適合責任(最判昭36. 12. 15(百選Ⅱ51), 最判平22. 6. 1(百選Ⅱ50)), ②賃貸借の意義, ②賃貸借の債務不履行解除と第三者(転得者)(最判平9. 2. 25(百選Ⅱ64)),
第13回	契約各論(4)：賃貸借(2), その他の契約(消費貸借, 使用貸借賃貸借) ①賃借権に基づく妨害排除請求, ②賃借権の無断譲渡・転貸, 無断転貸(最判平8. 10. 14(百選Ⅱ60)) ③敷金関係, ②その他の契約(雇用, 請負, 委任, 寄託, 組合)
第14回	法定債権(1)：事務管理, 不当利得, 不法行為(1) ①事務管理の意義, ②不当利得の意義, 不法原因給付(最判昭45. 10. 21(百選Ⅱ82)), ③一般的不法行為の意義, 要件, ④不法行為の効果(損害賠償責任)
第15回	法定債権(2)：不法行為② ①特殊不法行為概説, ②未成年者の督義務者の責任, 使用者責任, 共同不法行為, ③安全配慮義務, 請求権競合論(最判昭48. 6. 7(百選Ⅱ98))
テキスト	「民法(全)」第2版 潮見 佳男 著(有斐閣) 「民法判例百選Ⅱ 債権[第8版]」(有斐閣)
参考図書	内田 貴ほか編「ジュリスト増刊 民法の争点」(有斐閣), 内田 貴 著「民法Ⅱ」「民法Ⅲ」(東京大学出版会) 奥田昌道ほか 編「判例講義 民法Ⅱ 債権」(悠々社)など